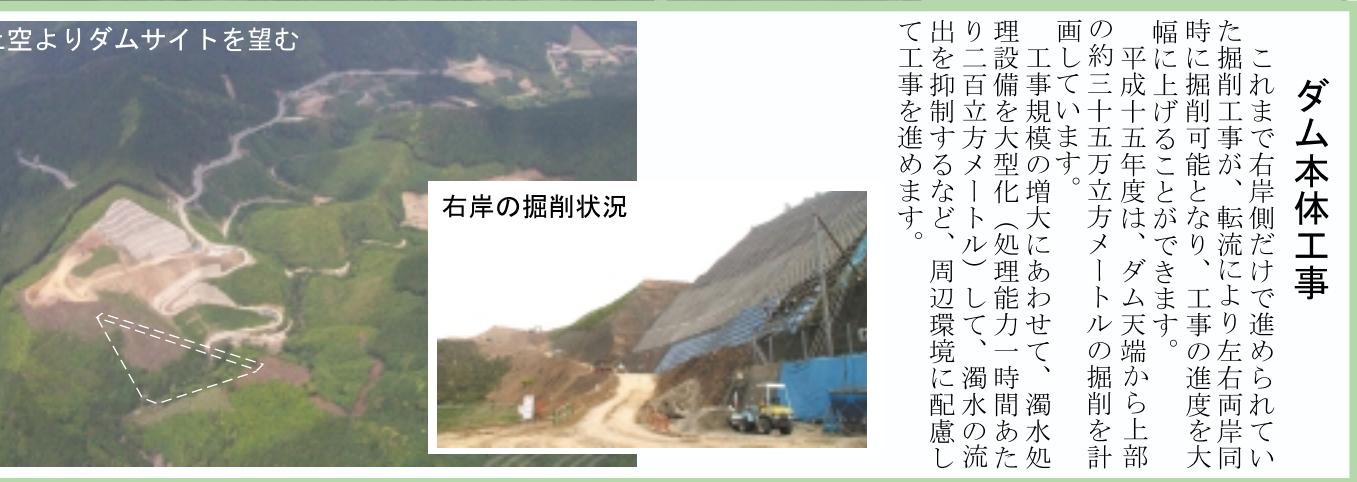


太田川ダムの建設が進んでいます

工事の進捗は年度末で五十%

太田川ダム建設工事は順調に進んでおり、本年度末には、本体工事における掘削土工量の約五十%が完了し、付替県道は新たに一・二キロメートルの供用開始を予定しています。また、全体の事業進捗率も約五十%に達する予定で、太田川ダム建設事業もいよいよ折り返し地点を越えることになります。



ダム本体工事

これまで右岸側だけで進められていましたが、ダム天端から上部幅に上げることができます。掘削工事が、転流により左右両岸同時に進行します。工事の進度を大幅に上げることができます。平成十五年度は、ダム天端から上部工事規模の増大にあわせて、濁水処理設備を大型化（処理能力一時あたり三百立方メートル）して、濁水の流出を抑制するなど、周辺環境に配慮して工事を進めます。

仮排水トンネル完成を記念して、転流式を行いました



▲トンネルの探検です。



▲転流式の様子です。

参加した感想をいただきました。



天方小6年
船木雄平くん
初めて太田川ダムに来ました。太田川ダムにくらなかつたけれど、思つくりしました。

天方小6年
安間文香さん
私たちを最後に、人がこのトンネルを通ることはできないと聞きました。とても良い思い出になりました。

事業に協力していただいた地権者や地元関係者、工事関係者等の出席のもと、川を仮排水トンネルに切り替え「転流式」を行いました。転流式では、合団とともにトンネルをふさいでいた鉄板がはずされると、太田川の水がトンネルに勢いよく流れ込み、祝い船（表紙写真）や万歳をして「転流式」を行いました。また、転流する前には、地元・天方小学校の六十九名のみなさんが、総合学習の一環として太田川ダムの勉強に訪れ、仮排水トンネルの中を探検しました。

企業局からのお知らせ

安全な水を供給するためにⅡ

前号のダムだより（平成15年3月号）で、テロや事故によって水道原水が毒物に汚染された場合の対応として、毒物反応に敏感なメダカをセンサーとしたバイオアッセイ（生物センサー）による監視システムを導入していることを紹介しました。

各浄水場では、こうしたシステムの外にも、監視カメラ、赤外線センサー、さらに防犯用フェンスを設置するなど、県民のみなさんが、安全な水道水を安心して使えるように、万全な対策を整えています。



▲寺谷浄水場に設置されている監視カメラの映像をチェックし、事故等を防止する。



▲寺谷浄水場周辺に設置された防犯用フェンス。